

**実績報告 別記第2号様式 別紙2の  
テーマごとに作成してください。**

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	2102412
園名	愛育幼稚園

## 1. 活動のテーマ

## &lt;テーマ&gt;

自然（木とかかわる、木育探求プログラム）

## &lt;テーマの設定理由&gt;

本園では、園庭にある様々な樹木に触れ、登ったり木の実や枝を拾ったり収穫した果実を食したりしてきた。改めて木を使った遊び、木に由来する多様な素材と出会う機会を設け、形、匂い、音など感覚を通して木と触れ合っていく。より興味と関心を深める中で、木を身近に感じ、環境としての木との関わりを広げ深めていく。

## 2. 活動スケジュール

2024年11月～

- ・グループごとに、船の設計を始める（年長児）

2024年12月3日（火） 東京・森と市庭 木育先生来園

- ・船作りワークショップ（年長児）
- ・木端材クラフト（年長児・年中児）
- ・木片、かんな節に触れる（全学年）

2025年1月20日（月） 東京・森と市庭 木育先生来園

- ・森の秘密基地ワークショップ（年長児）
- ・木端材クラフト（年長児・年中児）
- ・木片、かんな節に触れる（全学年）

### 3. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

2024年11月

12月3日の活動に向けて、自分たちが乗る船の設計図を画用紙に2～3人組で描いた。その設計図を基に、木片を選び、ヤスリをかけ、船の土台に木片を置いて組み立てた。木片を選びながら、「この組み合わせがいいね」「この大きさぴったりじゃん！」とイメージ通りの木片が見つかる声を掛け合い、作っていた。また、木片のヤスリがけでは、ザラザラな面がツルツルになっていく変化、手触りの良さを感じていた。

2024年12月3日

園庭にシートを敷き、かんな節プールの場と木片、木琴、バードコールに触れられる場を設定。かんな節プールでは、「これなあに?」「良い匂いがする」と呟きながら、かんな節に触れたり、プールに寝転んだりし、感触や香り、音を感じていた。又、かんな節を髪に見立てて身につけて遊ぶ姿もあった。木琴では、木の形による音の違いに気付いて、鳴らすことを楽しんでいた。遊戯室には、木育先生が工具で加工するコーナー、ブルーシートに木片を広げ、木片を選んだり、ポスカで着色したりするコーナーを設定。

事前に作成した設計図を基に「ここの部分はどうしようか?」「エンジンは回るようにしたいね」「どうしたら回るかな?」などとグループの友だちと相談し、様々な形の木片から、選んだり組み合わせたりしながらイメージを膨らませて製作に取り組んでいた。教師の「これ(木目)、目みたいだね」の言葉に、「こんな模様もあった」「この形、電車みたい」と、それぞれに木片の面白さを見つけていた。木育先生に自分のイメージを伝えて、相談しながら作る姿があった。また、出来上がったものを子ども同士で嬉しそうに見せ合う姿もあった。

2025年1月20日

園庭に、秘密基地を作る一角を設定し、その周りにかんな節プールと木端材クラフトコーナーを設定した。クラフトコーナーでは、ポンド・ポスカを使用できるようにした。自分の好きなものを作るために、木片を選んだり、着色したりする等、イメージを実現しようとしていた。秘密基地作りの、ヒノキの皮剥がしでは木の手触り・匂いを感じながら初めての感触を楽しんでいた。ヒノキの皮をうまく剥せた子が「ゆっくり引っ張るといいよ」など自分なりに得たコツを友だちに伝える、「こっち持ってて」と声を掛け合い、一緒に丸木を持つ姿があった。また、友だちと力を合わせて、基地の骨組み用の穴を掘り、そこに木を立てる際には、木を持って支える子、穴を埋める子など友だちと協力していた。木片で飾りを作っている時は、「こんな風なのはどうか?」と自分のアイデアを友だちに伝えながら、基地に装飾することを楽しんでいた。



#### 4. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

木を通して、子どもたちが感触・音・匂い・形の違いを感じる姿があり、様々な楽しみ方があることに気づかされた。また、木片やかんなの木目・色・形・工具を使った加工等、魅力的な素材があることで、子どもたちのイメージがさらに広がっていくことを感じた。初対面の木育先生とも子どもが積極的にやりとりする場面が多く見られた。子どもが“こうしたい”という思いを強くもてる活動が、自分の思いを言葉に表すことや様々な人と関わってみようという気持ちにつながっていると感じた。引き続き、教材研究や環境構成を工夫することを通して、子どもたちがイメージを広げたり表したりしながら遊ぶ機会を大切にしていきたい。